

5年生実践から見る 指導と評価

1. 単元名 「自動車生産にはげむ人々」～つながる日本のものづくり～

2. 学校教育目標と社会科（本単元）で目指す子どもの姿

《省略》

3. 単元目標

我が国の工業生産について、自動車の製造工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目し、地図帳や各種資料などで調べたりして、図表などにまとめ、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究解決しようとしたり、学習したことを基に今後の工業の発展について考えようとしたりする態度を養う。

4. 評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|---|
| ①製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などについて見学や聞き取り調査をしたり、各種資料などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、工業生産に関わる人々の工夫や努力を理解している。 | ①製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、問いを見出し、工業生産に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。 | ①我が国の工業生産について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 |
| ②調べたことを図表や文などにまとめ、工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解している。 | ②工業生産に関わる人々の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付けて、工業生産に関わる人々の働きを考えたり、学習したことを基に、消費者や生産者の立場などからこれからの工業について、多角的に発展を考えたりして表現している。 | ②学習したことを基に消費者や生産者の立場などからこれからの工業について、多角的に発展を考えようとしている。 |

5. 目指す子どもの姿に迫るための授業改善の5つの視点

(1) 教材化 ～多様な願いを叶える1つの製品に関わるたくさんの人々の協力関係～

本単元では、日本の工業生産の中でも世界トップクラスの生産技術を誇る自動車生産に携わる人々の取組や協力関係を取り上げました。多様な消費者のニーズや社会的なニーズに応え続けている日本の自動車づくりは組立工場と多くの工場や人々の協力が支え合って実現していることを捉えるようにしました。単元の後半には、関連工場で働く人々が協力し合い、様々なニーズに応えた製品づくりに取り組んでいることと、日本の工業生産に様々な課題があることを学び、持続可能な社会の実現と日本の工業生産の発展について考えることができるように教材化を図りました。

(2) 学習過程 ～学びの積み重ねとつながりを意識する～

生産者の工夫や努力、協力関係と消費者とのつながりを意識させ、生産者は消費者の願いを叶え、工業生産を支えていることを考えていけるように単元を構成しました。まず、日本の自動車が世界中の消費者に選ばれ、生産台数が世界3位という現状をもとに、学習問題を設定し、解決の見通しをもてるように学習計画を立てました。次に、多様な消費者のニーズに応えた自動車が完成し、消費者に届けられるまでに関わる人々の工夫や努力を調べ、それらに関連付けて学習問題を解決していく学習過程を単元の前半に設定しました。そして単元の後半では、自動車生産に携わる人たちの工夫や努力と消費者（私たち）とのつながりについて学んだことを生かして、日本の工業生産の課題解決について主体的に考えることができるように学習過程を計画しました。

(3) 学習活動 ～工業生産に携わる人々の取り組みの意味や協力の関係性を見抜く～

工業生産に携わる人々の取組の意図や、協力した生産体制をとる背景や利点に子どもが自ら迫っていけるような学習活動を取り入れました。新しい自動車や機能の開発を手掛ける関連工場で働く人の取組が、消費者にも自動車工場で働く人にもつながりがあることを関係図に表してまとめるようにしました。単元の終わりには、たくさんの方々の願いを叶え、発展を続けてきた工業生産が抱える課題を踏まえ、これからも発展していくために大切なことについて考えました。既習や友達の考えを根拠にして自分の言葉で表現し、話し合いを通して自分の考えを広げたり、深めたり、見直したりしました。学習問題に対するまとめでは、「そうすることで」や「だから」といった言葉を使って、これからの工業生産の発展についての自分の考えをまとめることができました。

(4) 指導と評価 ～ねらいと評価資料を明確にして見取り、評価に基づいた指導を行う～

単元を通して評価場面、評価資料、評価の観点を明確にし、授業中のつぶやきや振り返り等から、子どもの思考の流れを見取るようにしました。目には見えない生産者と消費者のつながり、生産者同士の協力関係の意味やよさを考え続けることを目指した指導計画を立てました。単元を通じた子どもの目指す姿や1時間ごとのねらいと評価資料を明確にして指導しました。教師の助言を受けた上で、自分の考えをまとめたり、友達の考えを参考にしたりしながら、学習問題に対する自分の考えをまとめることができるように支援をしました。

(5) 一人一人が生きる社会科学習 ～つぶやきが共有され、ともに生かし合う学びの雰囲気づくり～

子ども一人一人が自分の考えを自由に表現しながら、お互いに高め合う集団をつくっていくように心がけました。個の振り返りを全体に広めたり、自主的に調べたことを発表したりする場面を設定しました。そして、本単元でも、思考の流れを大切にしたい問題解決的な学習と、ともに生かし高め合う協働的な学びを大切に、教師の役割を考え、手立てや支援を行いました。

6. 問題解決的な学習の充実につながる単元構想



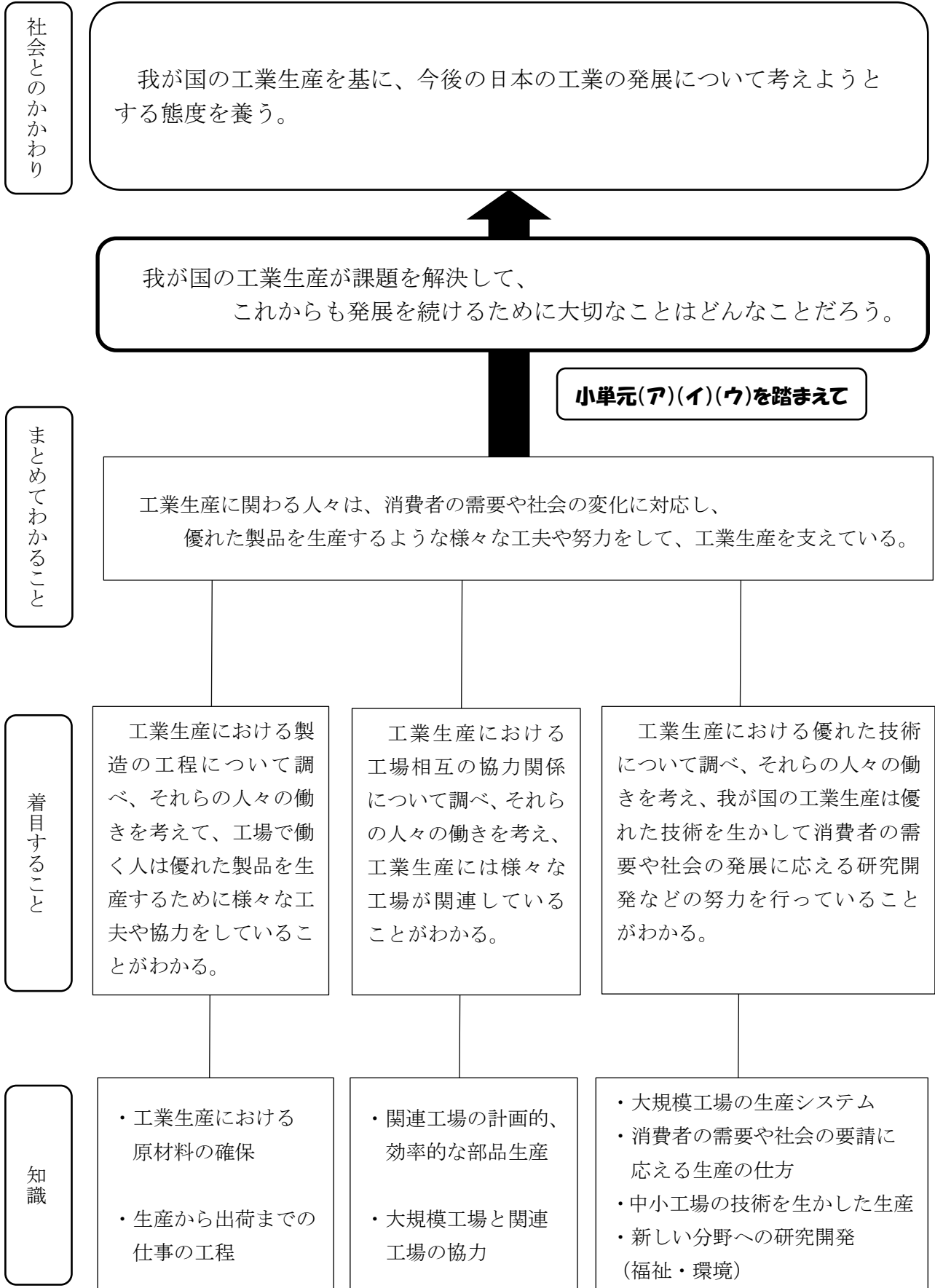
7. 資質・能力の育成に向けた学習評価計画（10時間） ※は評価したことを記録に残す場面

| ○ 本時のねらい | ○主な学習活動 | ◇主な資料 | 評価方法【評価規準】 |
|---|--|--|---|
| ①消費者の注文通りの自動車をたくさん生産している自動車産業の取組について話し合うことを通して、学習問題をつくることができるようにする。 | ○消費者の注文通りの自動車をたくさん生産している自動車産業の取組について話し合い、学習問題をつくる。 | ◇日本の自動車生産台数の推移 ◇自動車のカタログ ◇1台の自動車に使われる部品の数 | 発言内容やノートの記述内容から、「製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して問いを見出しているか」を評価する。 【思－①】 |
| ②学習問題の解決に向けて予想や学習計画を立てることができるようにする。 | ○予想を出し合い学習計画を立てる。 | ◇日本の自動車生産台数の推移 ◇1台の自動車に使われる部品の数 ◇1台の自動車が生産されるのにかかる時間 | 発言内容やノートの記述から、「我が国の工業生産について、予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。 【態－①】 |
| ③④自動車工場ではライン生産で人とロボットの長所を生かして自動車が組み立てられる工程を調べることを通して、自動車工場で働く人々が効率よく消費者の注文通りの自動車を生産する工夫に取り組んでいることを理解できるようにする。 | ○自動車工場での生産工程と消費者の注文通りの自動車を効率よく生産するための生産者の工夫を調べる。 | ◇1台の自動車に使われる部品の数 ◇自動車の生産過程 ◇自動車工場で働く人の話 | ノートの記述から、「自動車生産の工程を調べて、消費者の注文通りの自動車を正確に組み立てるための生産者の工夫や、ロボットを活用して効率的な生産を実現していることを理解しているか」を評価する。 【知－①】 |
| ⑤自動車工場と関連工場の結びつき、関連工場の計画的、効率的な部品生産の工程を調べることを通して、自動車生産には様々な工場が関連していることや、関連工場働く人の工夫や努力を理解できるようにする。 | ○自動車工場と関連工場の結びつき、関連工場働く人の工夫や努力を調べる。 | ◇自動車工場と関連工場の結びつき(図) ◇関連工場働く人の話 | ノートの記述から、「自動車工場と関連工場の結びつきや、関連工場での部品生産の工程を調べて、工場同士の協力関係や関連工場働く人の工夫や努力を理解しているか」を評価する。 【知－①】 |
| ⑥完成した自動車が工場から消費者に届くまでの流れを調べることを通して、出荷に関わる人たちの工夫や努力、工場の立地と輸送の関係について理解できるようにする。 | ○完成した自動車が工場から消費者に届くまでの流れを調べる。 | ◇自動車が消費者に届けられるまでの流れ ◇保護シート(写真) ◇積み込み作業をする人の話 | ノートの記述から、「自動車が工場から消費者に届くまでの流れ、積み込み作業をする人の話を調べて、輸送方法の工夫や運送業者で働く人の努力を理解しているか」を評価する。 【知－①】 |

| | | | |
|--|---|--|--|
| <p>⑦新しい自動車や機能の開発の様子を調べることを通して、自動車生産では、消費者のニーズを反映した製品の開発が行われていることを考え表現できるようにする。</p> | <p>○新しい自動車や機能の開発に携わる人が大切に行っていることや、努力していることを調べる。</p> <p>○工業生産に携わる人々の工夫や努力について考える。</p> | <p>◇自動車会社の開発担当者の話</p> <p>◇関連工場で働く人の話</p> | <p>ノートの記述や発言内容から、「自動車会社の開発担当者の話や関連工場働く人の話を根拠に、生産者や消費者にとっての製品の開発や改良の利点を考えているか」を評価する。</p> <p>【思-①】</p> |
| <p>⑧調べたことを図にまとめ、学習問題について話し合うことを通して、工業生産が工業生産に携わる人々の工夫や努力、工場相互の協力関係、優れた技術によって行われていることを理解できるようにする。</p> | <p>○学習したことを基に、消費者の需要、社会の変化、自動車生産に携わる人の工夫や努力、優れた技術、工場相互の協力との関連を話し合う。</p> <p>○図に整理し、学習問題について話し合い、考えをまとめる。</p> | <p>◇これまで活用してきた資料</p> <p>◇ノート</p> | <p>関連図から「学習したことを基に、自動車生産の仕組み、工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付けて人々の働きについて考えたことを説明しているか」を評価する。</p> <p>【思-②】</p> <p>ノートの記述から「自動車生産に携わる人々は製品の品質や安全性を高め、消費者のニーズを実現するために努力や協力をしたり、輸送方法を工夫したりして注文通りの自動車を消費者に届けるなど、自動車生産を支えていることを理解しているか」を評価する。</p> <p>【知-②】</p> |
| <p>⑨日本の工業生産の現状や課題を調べることを通して、日本の工業生産の課題解決や発展について考えようとする態度を養う。</p> | <p>○学習問題についてまとめたことを振り返る。</p> <p>○国内の工場の数や工場働く人の人数の推移を調べる。</p> <p>○日本の少子高齢化と海外生産を行っている日本企業の数を知る。</p> <p>○中小工場働く人の話を調べ、日本の工業生産の問題を知る。</p> | <p>◇グラフ</p> <p>「国内の工場数と工場働く人の推移」</p> <p>「日本の工業生産に力を入れる中小工場と大工場の割合」</p> <p>◇中小工場働くひとの話</p> <p>「人口ピラミッド」</p> | <p>ノートや発言内容から「これまでの学習を振り返り、さらに調べるべきことを考え学習の見通しをもっているか。」を評価する。</p> <p>【態-①】</p> |
| <p>⑩これまでの学習を基に、日本の工業生産の現状を改善するために大切なことについて話し合うことを通して、日本の工業生産の発展を考え表現できるようにする。</p> | <p>○日本の工業生産がよくなるために大切なことは何かを話し合う。</p> <p>○マスク生産を始めたメーカーの取り組みから、生産者と消費者のつながりを考える。</p> <p>○これからの工業生産の発展について自分の考えを書く。</p> | <p>◇これまでに活用してきた資料</p> <p>◇ノート</p> <p>◇不織布マスクの輸入量</p> <p>◇国内でマスク生産を開始したメーカーの取組</p> <p>◇機械工場働く人の話</p> | <p>ノートの記述から「日本の工業生産の現状を改善することについて、学習したことを基に、消費者や生産者などの立場から多角的に考え表現しているか」を評価する。</p> <p>【思-②】</p> <p>ノートの記述から「これからの日本の工業生産の発展について考えをまとめているか」を評価する。</p> <p>【態-②】</p> |

資料. 「社会のしくみ」と「社会のかかわり」をつなぐ理解の構造図

(イ) 「工業生産に関わる人々」



ともに生きる未来を創造し、よりよい社会の在り方を問い続ける社会科学習

研究主題に向けて、5年部会では、以下の5点を大切にして日々の授業に取り組んできました。

1. 自分の生活とのかかわりを**実感**できるようにする
2. 主体的（個）・協働的（集団）に学び、**多角的に考えられる**ようにする
3. 社会の仕組み等の**確かな理解**ができるようにする
4. **問題解決的な学習**を通して、よりよい社会を考えられるようにする
5. 学習の積み重ねにより、**国土への愛情が育まれる**ようにする

本単元では、「多角的に考え、国土への愛情が育まれる教材化」「問題解決的な学習を通して、自分の生活とのかかわりを実感できる学習過程」「社会の仕組み等の確かな理解のための評価と指導の一体化」の3つの視点を通して、研究主題の達成を目指しました。

今年度の重点「指導と評価の一体化」について

○**妥当性**の高い学習評価にするための「進め方」を大切にする

- ① 内容のまとまりごとの評価規準を作成する
- ② 単元の目標を作成したのち、評価規準を作成する
- ③ 「指導と評価の計画」を作成する（記録に残す評価の位置付け・評価資料の吟味も含む）
- ④ 授業を行ったのちに、観点ごとに総括する

○観点のポイントを明確にし、単元ごとに具体的な子どもの姿を考えることで**信頼性**を高める

知識・技能

- ・調べて、必要な情報を集め、読み取り、社会的事象の様子について具体的に理解しているか。
- ・調べたことなどを文などにまとめ、社会的事象の特色や意味などを理解しているか。

思考・判断・表現

- ・社会的事象に着目して、問いを見だし、様子について考え表現しているか。
- ・比較・関連付け・総合などして社会的事象の特色や意味を考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現しているか。

主体的に学習に取り組む態度

- ・社会的事象について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究解決しようとしているか。
- ・よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしているか。

これまでに重点としてきた「教材化」と「学習過程」について、継続して大切にしていること

教材化

- ・児童の実態を大切にして、学びたい教材を選び
- ・社会的事象の意味がわかり、よさを感じることができる
- ・取り上げる事例を通して、目標にせまることができる
- ・問題解決のための資料化ができる
- ・驚きなど思考をゆさぶる資料化ができる
- ・扱った事例のこれからについても考えたい
- ・かかわる人々の思いや願いがみえる
- ・一つの事例と単元全体のバランス

学習過程

- ・児童の思考の流れを大切にした学習過程
- ・見通しをもてる単元構成
- ・主体的・対話的に学べる
- ・既習を生かせる
- ・自分たちにできることはないかと考え続けられる（未来志向）
- ・社会的事象における様々な人々のかかわりに気付く
- ・人々の相互関係に着目して、様々な立場から多角的に考える
- ・社会的事象を比較・関連付け・総合させて特色や役割を多角的に考えることで、意味にせまる

